

中国3 「読むこと（古典）」に関する問題②

年 組 番 氏名

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

次のA・Bの句は、いずれも芭蕉が詠んだものです。

A 五月雨をあつめて早し最上川

B 五月雨をあつめて涼し最上川

A・Bのどちらかの句が先に作られました。しかし、その元の句は、芭蕉の次のような「川下り」の経験に基づいて推敲された（書き直された）と考えられています。

最上川はみちのくより出て、山形を水上とす。ごてん・はやぶさなど難所あり。

（上流）

板敷山の北を流て、果ては酒田の海に入る。左右山覆ひ、茂みの中に船を下す。これに稻つ

（山が覆い被さるようになり）

みたるをやいな船といふならし。白糸の滝は青葉のひまひまに落ちて、仙人堂岸に臨みてたつ。

（稲船というのであろう）

（すき間）

水みなぎつて舟あやふし。

（勢いよく流れて）

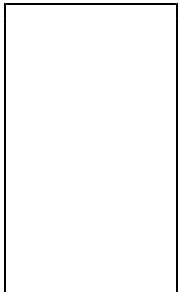
（芭蕉『おくのほそ道』による。）

（注1） 最上川は山形県を貫いて流れる川の名。酒田で日本海に注ぐ。

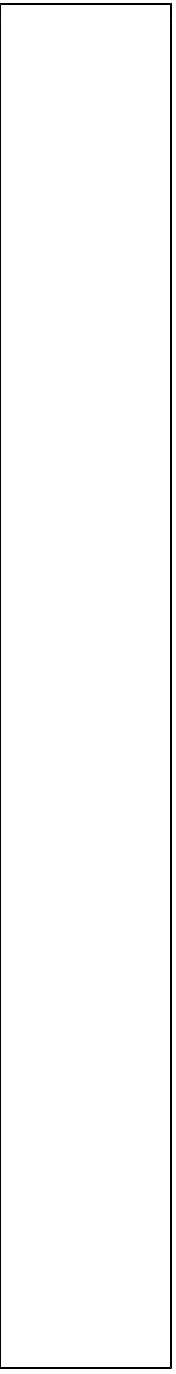
（注2） ごてん・はやぶさは最上川の難所名。

（注3） 白糸の瀧は最上川四八滝中、最も有名。高さは二二〇メートルと言われる。

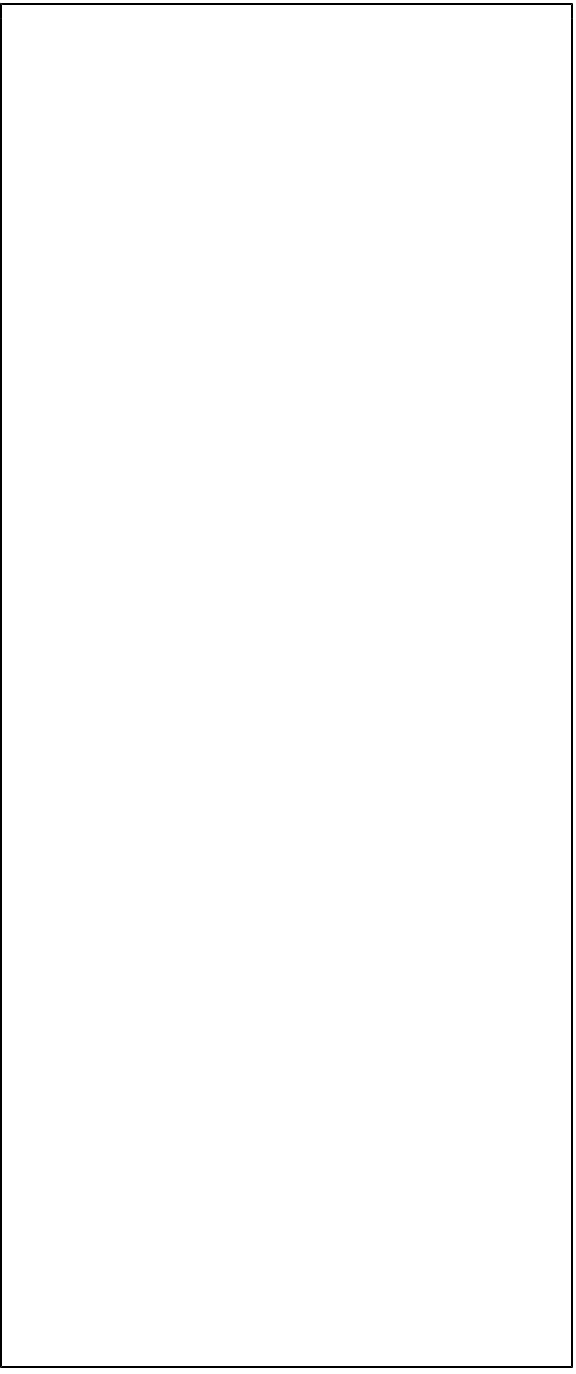
問一 A Bのどちらが「推敲された句」なのかを答えなさい。



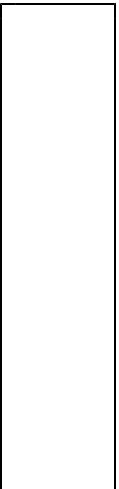
問二 推敲のきっかけとなったと考えられる「最上川の様子」が書かれている部分を、本文の中から一文で抜き出なさい。



問三 推敲することによって、句から受ける印象はどのように変わりましたか。前後の違いがよくわかるように比較しながら、具体的に書きなさい。



問四 あやふしを現代仮名遣いに直して書きなさい。



問一《解答》

A

問二《解答》

水みなぎつて舟あやふし。

問三《解答例》

「五月雨を集めて涼し」では、読み手の注意は雨の降っている様子に向けられるが、「あつめて早し」とすることによって、雨の水量の多さ、それによって水の勢いが増して急流に舟がほんろうされるようすを表すことができ、自然の力強さと、その前では人も無力であることの対比をきわだたせた句に変化している。

具体的に二つの句を引用し、印象の違いがわかるように比較してみよう。

問四 あやふしを現代仮名遣いに直して書きなさい。

あやうし

歴史的仮名遣いのルールを確認してみましょう。